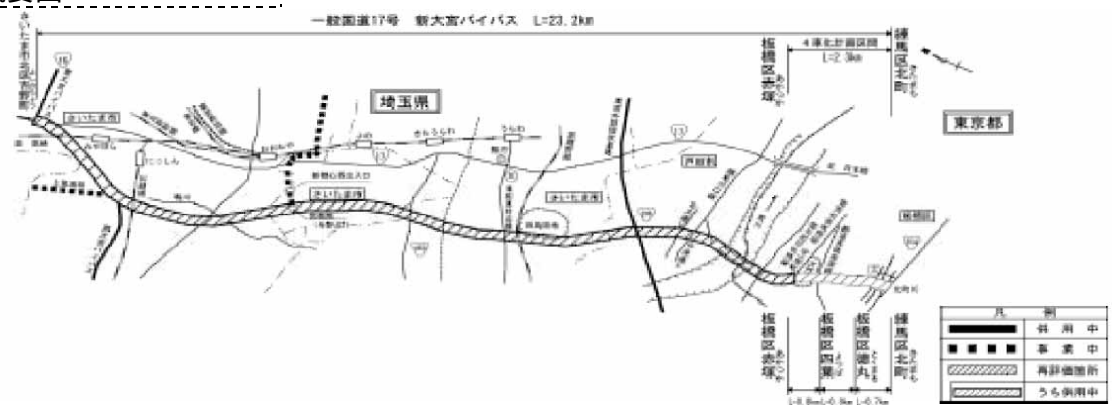


再評価結果（平成21年度継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名：一般国道17号新大宮バイパス	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 関東地方整備局		
起終点：自：東京都練馬区北町 至：埼玉県さいたま市北区吉野町		延長：23.2km		
事業概要 新大宮バイパスは一般国道17号（東京都北町（起点）から埼玉県さいたま市北区吉野町）まで23.2kmの交通混雑緩和を目的とした、4～6車線のバイパス道路である。				
S39年度事業化	S38年度都市計画決定 (H元年度変更)	S44年度用地着手		
		S45年度工事着手		
全体事業費	約800億円	事業進捗率：88%		
計画交通量	31,800～44,400台/日			
費用対効果 分析結果	B/C： (事業全体) 2.0	総費用：(残事業)/(事業全体) 72/3,469億円	総便益：(残事業)/(事業全体) 415/6,904億円	基準年： 平成20年度
	(残事業) 5.7	事業費：63/3,380億円 維持管理費：8.8/89億円	走行時間短縮便益：349/6,206億円 走行経費減少便益：47/698億円 交通事故減少便益：18/0.56億円	
事業の効果等 ・一般国道17号の混雑緩和を図り、業務核都市であるさいたま市と首都・東京を結び骨格路線として機能するために、放射35号線・36号線とあわせた新大宮バイパス(都内4車線化計画区間)の整備が必要である。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平成10年5月の高速埼玉大宮線の供用や、平成12年5月の「さいたま新都心」の街開きのため、一般国道17号等の周辺道路の交通渋滞が深刻化している。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 現在、埼玉県内区間(L=20.9km)は完成6車線供用済。用地取得率は約99%。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 接続する放射35号線の供用時期(平成22年度の予定)には、国道254号交差点の立体化を行い、その後放射36号線の供用時期をみながら整備を進める。				
施設の構造や工法の変更等 工事施工にあたっては、構造物のプレキャスト化による工期短縮、新技術の活用によりコスト削減を図っている。				
対応方針	事業継続			
対応方針決定の理由	残区間の必要性、重要性は変わらないと考えられる。			
事業概要図 				

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。